

## 平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- 生徒たちが「入学してよかった」と誇れる学校に！ 保護者の皆さんが「入学させてよかった」と感謝いただける学校に！
- 卒業生の皆さんが「母校」として自慢できる学校に！ そして、地域の皆さんからは「頑張れ」と応援していただける学校に！
- 1 自尊感情や自己肯定感を高める：傾聴と共感、「ええここはほめる」でも「あかんもんはアカン」のぶれのない生徒指導
  - 2 生徒の興味・関心を引き出す授業：創意工夫と教育資材の活用で「そうなんや」「わかった」「できた」の声が聞ける授業
  - 3 めざす進路の保障：計画的なキャリア教育で生徒の夢を叶える。「なりたい自分」を見つけ、その実現のための確かなサポートを
  - 4 部活動や学校行事等の活性化：頑張った生徒はどんどんほめる。「やったー」「やるやん」達成感を共感できる行事や部活動
  - 5 地域連携とPTA活動の活性化：形だけで終わらない「P」と「T」の連携。保護者を学校に呼び戻す

『 堺上高校はそんな学校をめざしています！！ 』

## 2 中期的目標

- 1 確かな学力を身につけるための取組み
  - (1) 1年次からの計画的なキャリア教育を通じて、学びへの意欲を高める。
  - (2) 多様な進路を実現するための進路支援システムを確立する。
  - (3) 少人数授業（英語、数学）を活用し、基礎学力の定着と学ぶ意欲の向上を図る。
  - (4) 教育委員会等の支援事業を活用し、早期に進路目標をもたせる指導を行う。
    - ア 総合的な学習の時間「発見」や各教科を通じて進路に関わるあらゆる情報を提供する。自己の適性を正確に知り進路実現のために早く準備をさせ、27年度は、卒業後に自己実現のための準備に備えるもの以外の進路未決定率を2%以下に、就職内定率は100%をめざす。
    - イ PTA主催の大学見学会の広報と充実を図る。
  - (5) ICTを活用した授業実践について研究協議を行い、積極的な活用を図る。ビジュアル教材の活用にも努め教材の共有活用化を図る。
  - (6) 各教科の指導や評価を工夫し、課題プリントの提出の徹底を図る。平成26年度は定期考査時以外の家庭学習ゼロの生徒が前年度比8ポイント減の55.7%となったが、平成27年度には50%以下にする。
  - (7) 授業アンケートの分析と活用により、授業力の向上を図る。
  - (8) 研究授業週間の充実や初任者研修・パッケージ研修等を通じ、上高「授業スタンダード」の確立と共有化を図る。
- 2 基本的生活習慣の確立と規範意識向上に向けた取組み
  - (1) コミュニケーションの第一歩として、笑顔で挨拶できる習慣づくりを展開する。
    - ア 声掛けが生活指導の基本であることから、登校時の校門での声かけを毎日実施し、挨拶の徹底を図る。
  - (2) アルバイト主体の生徒へのアプローチを強める。
    - ア 学習への取組やクラブ・クラス活動参加、出欠状況等に影響が大きいアルバイト（現在は62.3%の生徒が経験）を最小限にとどめるため、合格者説明会時から保護者・生徒に広報活動を続け、アルバイトをしている生徒を2年後には5割以下に減少させる。
  - (3) 人間関係づくりに留意し、互いの人権を尊重する気持ちを育む。
    - ア 入学当初から、HRや総合的な学習の時間、学年行事等で他者理解を深める指導を徹底する。
    - イ 学校生活支援カードの活用や学校いじめ防止基本方針の徹底を図り、教育相談体制の充実をめざす。生徒の小さな変化にも少しでも早く対応ができるようセーフティネットをよりきめ細かなものとする。
  - (4) 2学期以降、地域の祭りや生活リズムの変化で、遅刻する生徒が急増する傾向にある。進路の問題とも絡め時間を守る習慣を定着させる。
    - ア 学年指導を工夫し、全教職員一致した指導を行う。
- 3 学校行事や生徒会活動・部活動の活性化に向けた取組み
  - (1) 26年度は1年生が44%、全体では40%の部活動加入率であった。体験入部システムの改善や活動成果の広報等により27年度に全体で45%以上、3年後の29年度には50%以上としたい。堺上高校は「部活動の盛んな学校」というイメージを広報活動等様々な活動を通じて定着させる。
  - (2) 練習場所の確保や練習環境の整備に努める。対外的活動を充実させ、運動部・文化部ともに大会や発表会への参加率を上げる。
  - (3) 中高連携を推進するため、「堺上高杯」をさらに発展させる。
  - (4) 文化祭や体育大会等学校行事の更なる充実に向け、生徒の自主的な参画に努める。
- 4 校内運営体制の改善と人材の育成
  - (1) 分掌や各種委員会等の業務の見直しを行い、業務の精選と簡素化、業務量の均等化、情報の共有化をめざす。
  - (2) 事務室業務の見直しを行う。業務内容の洗い出しを行い簡素化に努めるとともに、経費の効果的な執行に努める。
  - (3) 新たな取組や改善方策の提言を集約し、改善に努める。
  - (4) 現在ある将来構想委員会の充実を図ることにより、将来に向けた新たな構想構築をめざす。
  - (5) フレッシュミーティングを年5回開催するなど充実を図り、経験年数の少ない教員の育成システムを構築する。
- 5 広報活動の充実と保護者や地域との連携の推進
  - (1) 「学校案内リーフレット」やホームページ等の工夫に努め中高連絡会を開催するなど充実を図ることにより、中学校へ本校の良さを発信する。
  - (2) 教育産業（学習塾等）への広報活動を強化する。
  - (3) PTA活動内容の精査を行い、更なる活動の充実を図ることにより、保護者の皆さんがPTA行事や学校行事に積極的に参加していただくよう努める。
  - (4) 保護者向けに行っているメール配信の更なる充実を図る。平成26年度の登録率58%を来年度は60%以上をめざす。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年1月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【自己診断全般から】本年度は、近年で最高値であった平成26年度の数値をほとんどの項目で大きく上回る好結果がでた。平成24年度頃の数値から倍増した項目があるなど、日々の地道な取組の成果と考えられる。ただ、「テスト以外家庭学習をしない」「本をまったく読まない」の回答が年々増加していることや、アルバイトをしている生徒が年々増加し、平成24年度にはほぼ半数であったアルバイト率が平成27年度には約3人に2人となるなど、高校生全体に係る問題も浮かび上がってきている。</p> <p>【生徒の回答から】学校生活全般については、「学校へ行くのが楽しい」「学校行事はみんなが楽しく行えるよう工夫している」「私は校則やマナーを守っている」「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」等の項目で昨年度比で4~10ポイント以上の増となり、学校が生徒たちにとって安全で安心できる居場所となってきたことが分かる。授業に関しては、ICTを積極的に活用し、生徒の興味・関心を引出すよう授業の改善に取り組んだ結果、「わかりやすい授業が多い」が昨年度比5.7ポイント増の56.1%に、また、「学習内容が理解しやすいうように教え方に工夫をしている先生が多い」が昨年度比7.2ポイント増の70.3%になるなど成果が表れた。アルバイトをしている生徒の割合が年々増加し、今年度はほぼ3人に2人（65.9%）がアルバイトをおこなっているという状況となってきた。今後、勉強や部活動との両立の方策や部活動への参加率の向上に向けた取組が必要と考える。</p> <p>【保護者の回答から】学校生活全般については、「学校へ行くのが楽しいようだ」「学校行事に子どもは積極的に参加している」がともに80%以上となるなど肯定的な回答を得た。授業に関しては、「内容がわかりやすく楽しい授業が多いようだ」が平成24年度の回答では30.3%であったが、本年度は倍増の64.4%となった。昨年度比でも約22ポイント増となったことから、ICTを積極的に活用するなど授業改善に向けた取組の成果が表れたものと考えられる。PTA活動についても、「学校はPTA活動が活発である」が平成24年度の回答では30.1%であったが、本年度は68.5%となった。昨年度比でも約18ポイント増となり、年々PTA活動が活性化し行事等への参加者も増えるなどPTA活動の盛んな学校として評価されてきたものと感じている。</p>	<p>第1回（6月22日実施） ○授業見学及び校内見学をおこなった。引き続き、平成26年度報告をおこない、平成27年度学校運営計画についても協議しご了承をいただいた。</p> <p>第2回（11月16日実施） ○進路状況報告、生徒状況報告をおこなうとともに、PTA活動についても報告をおこなった。また、アドミッションポリシーについて報告をおこない、了承をいただいた。</p> <p>第3回（2月19日実施） ○平成27年度学校評価及び平成28年度学校経営計画（案）について提示をおこなう。また、学校教育自己診断の結果及び分析について報告をおこなった。最後に、協議会から下記の提言を受けた。</p> <p>【次年度に向けた学校への提言】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 『「わかった」「できた」「教えて」「やるやん」の声が聞こえる授業づくり』を学校組織目標に掲げ、研究授業や研究協議を重ねICTを積極的に活用するなど、生徒の興味・関心を引出し確かな学力を身につけることができるよう授業の改善に取り組んでいただいた結果、「わかりやすい授業が多い」が昨年度比5.7ポイント増の56.1%に、また、「学習内容が理解しやすいうように教え方に工夫をしている先生が多い」が昨年度比7.2ポイント増の70.3%になるなど大きな成果が表れたと思います。今後、ベテランの経験と若手の活力を活かし、同僚性を大切に授業改善への取組を推進してください。また、外部の方を巻き込んだ授業改善にも取り組んでいただくよう期待いたします。</li> <li>2. アルバイトをしている生徒の割合が年々増加し、ほぼ3人に2人（65.9%）がアルバイトをおこなっているという状況となってきました。このような状況の中で、勉強や部活動との両立の方策や部活動への参加率の向上に向けた方策の検討をおこなってください。</li> <li>3. 再任用教員を除けば貴校が初任校である教諭が全体のほぼ6割であるなどの現状の中、経験の少ない教員が多い年齢構成を考慮した人材の育成や活用に努めてください。再任用教員を経験の少ない教員の育成に活用するなどの工夫を期待します。</li> </ol>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

目的期	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力への取組	<p>(1)「生徒が意欲的に取り組む授業」の創造をめざす。 ア. つまづきの原因を生徒自身で理解させ、その克服を図る。 イ. 興味・関心を引き出すための創意工夫と教育資材の活用 ウ. 同僚性を活かした研究協議等の実施 エ. 上高授業スタンダードの確立と共有化</p> <p>(2)多様な進路を実現するための支援の充実を図る。 ア. 進路支援システムの充実 イ. 大学見学会の充実 ウ. 漢検・英検・パソコン検定の受検促進</p>	<p>(1)ア. 今年度新入生より「実力診断テスト」を導入し、入学当初から中学校段階でのつまづきの原因を生徒自身で理解させ、その克服を図る。また、少人数展開授業（英語・数学）等を活用し、生徒同士で互いに学びを高め合いながら、確かな学力を身につけさせる。 イ. 興味・関心を引き出す授業を行うため、ICTや教材ソフトの活用を推進する。また、そのための環境の整備を図る。 ウ. 研究授業週間を設け、実践的な授業力の育成が図られる研究授業や研究協議を実施する。オフサイトミーティングなども活用し、同僚性を活かした授業改善を図る。 エ. 経験の少ない教員を対象にフレッシュミーティングを開催し、その中でも上高「授業スタンダード」について協議し、共有化を図る。 (2)ア. 外部講師等による進路講演会や就職支援コネクターを活用した就職対策を行う。就職の面接指導や一般教養講習では時間順守や挨拶等徹底した指導をおこなう。医療看護系や4年制大学進学希望者向けには、個々の進路に応じた個別講習を実施し、出席の徹底も図る。 イ. 大学見学会の実施形態を定着化させ、内容の充実を図る。 ウ. 漢検・英検・パソコン検定の受検促進を図る。</p>	<p>(1)ア. 学校教育自己診断における生徒の授業満足度を55%以上に(H26は50%) イ. ICT活用研修会等への参加教員数。情報機器活用度70%以上に(H26は63%) ウ. 研究授業開講数を20講座に(H26は18)授業について他教科と話し合う機会があるを60%に(H26は43%) エ. フレッシュミーティングを5回以上開催する。 (2)ア. 就職一次合格率81%(H26同)を維持する。外部講師による進路講演会や分野別説明会を5回以上行う。保護者対象の3回の進路講演会への参加者数を10%増に(H26は計192名) イ. 2回の大学見学会の実施形態を定着化させ、参加者数を10%増に(H26は57名) ウ. H26漢検64名、英検11名パソコン検定69名の受検者の10%増をめざす。</p>	<p>(1) 学校教育自己診断における生徒の授業満足度が5ポイント増の56%に、教え方に工夫をする教員が多いが7ポイント増の70%となった。(○) 1年生を対象に導入した「実力診断テスト」の結果を担当や教科担当者で共有し学習指導に活用した。同時に1年生を対象に今年から実施した「放課後勉強会」には14名が参加、大学進学に向けた指導にも活用した。(○) プレゼンテーションソフト活用研修に加えHP作成研修を実施。情報の授業でもICTを活用したプレゼン公開授業を1年で実施した。ICT教材を整備し活用を促進したことで生徒の興味・関心を引き出される授業へと改善が図られた。(○) 公開授業週間加えフレッシュミーティングメンバー主催の「秋のフレッシュ授業見学まつり」を11月に実施し、2週間にわたって40講座以上を開講した。研究協議も互い同僚性を活かした授業改善が図られた。フレッシュミーティングは年間5回実施し、課題の共有化など授業改善が図られた(◎) (2)就職一次合格率76%と昨年より5ポイント下がった。原因として好景気で1次で生徒が難関企業を希望したことによる、2次以降は順調に採用が決定した。進路講演会・分野別説明会を1回増の6回実施。3回の保護者向け進路講演会の参加者数は188人であった。(○) 大学見学会は、合計76名で33%増となり行事として定着。生徒の進学に向けた意欲の高まりを感じた。(◎) 漢検41名、パソコン検定60名で減となった。英検は、生徒への声掛けが実り37名と倍増した。(○)</p>
2 基本的な生活習慣確立への取組	<p>(1)ぶれのない指導(あかんもんはアカン)と頑張った生徒への支援(ええとこはほめる)に努める。 (2)教育相談体制の充実を図るとともに、互いの人権を尊重する気持ちを育む。 (3)遅刻の減少と頭髪や服装等のマナーの向上を図る。</p>	<p>(1) 生徒への声掛けが指導の基本であることから、登校時の声掛けを、駐輪指導と並行して毎日行う。警察等と連携し自転車事故防止やマナー向上のための講習会を実施する。 (2) 生活支援カードの活用を図り、生徒の小さな変化にもきめ細かな対応ができるよう努める。スクールカウンセラーの協力を得、相談室の有効的な活用を図り外部機関との連携に努める。 (3)遅刻回数による居残り指導や遅刻防止週間、入室許可書等これまでの指導システムを継続させながら減少に取組む。頭髪指導日の設定など頭髪や服装マナーを継続的に指導する。校外補導に際し地域清掃を行い連携を推進する。</p>	<p>(1)学校自己診断の分析で、校則やルールの遵守肯定度を80%以上に(H26は73%)自転車事故件数の減少をめざす (2)「担任以外にも相談できる先生がいる」の肯定度を50%以上に(H26は40.5%)教育相談件数とその分析内容 (3)遅刻統計の集計比較26年度の10%減をめざす。・月1回の校外補導の実施と地域清掃の実施</p>	<p>(1) 校則やルールの遵守肯定度が6ポイント増の79%になった。(○) (2)ワークショップ形式の教育相談研修やスクールソーシャルワーカーを招聘したケーススタディ研修などの実施により、教育相談委員会と学年団や養護教諭、スクールカウンセラー等との連携が深まり、生徒の小さな変化にもきめ細かな対応ができるようになるなど、セフィ初めのさらなる充実が図られた。(○) 「担任以外にも相談できる先生がいる」の肯定度が15ポイント増の59.6%になった。(◎) (3)居残り指導など学年生指部を中心に徹底した指導をおこなったことにより遅刻総数が昨年度比約554人減の9,954人となった。(○)</p>
3 学校行事や生徒会・部活動に向けた取組 に 学校行事や生徒会・部活動の活性化	<p>(1)アルバイトを行う生徒を減らし、部活動の入部率を上げる。 (2)部活動の更なる活性化を図る。 (3)部活動における地域や小中学校との連携を推進する。 (4)行事の活性化を図り、生徒が達成感を感じることでできる行事づくりをめざす。</p>	<p>(1)合格者説明会等においてアルバイトをせず部活動に入ることの意義を保護者や生徒にも十分に説明する。中学生向け学校説明会においても部活動紹介を積極的に行う。入学後の体験入部にも工夫を加え、1年次の加入率をあげる。 (2)対外活動の充実を図り、大会や発表会への参加率を上げる。大会成績において26年度以上の成績をめざす。教員が部活指導に時間を取りやすいような体制づくりや環境整備に努める。 (3)ソフトテニス部が運営する「堺上高杯」を更に充実させる。隣接小学校とのダンス指導や授業見学等の交流を更に促進させる。 (4)体育大会や文化祭等の行事においては、生徒会執行部や部員・有志の参画に努め生徒が達成感を感じることでできる行事づくりをめざす。</p>	<p>(1)1年次の加入率を、50%以上、全体の加入率を45%以上、女子運動部加入率20%以上をめざす。(H26はそれぞれ44%、40%、19%) (2)これまで活動実績のなかった部の活動再開や発表会参加。競技会や発表会の成績。 (3)「堺上高杯」を2回実施し、中学生参加者250名以上をめざす。(H26は238名)隣接小学校との連携内容。 (4)学校行事満足度を60%に(H26は56%)「生徒会行事への関心と積極的な参加」肯定度を40%に(H26は34%)</p>	<p>(1)加入率は全体で43.4%、女子運動部で19%と目標に届かなかったが、1年加入率では51.4%と目標を上回った。家庭状況などからも、アルバイトによって家計を支える必要のある生徒も多く、今後は部活動とアルバイトの両立の方策を考える必要もある。(△) (2)新着任教員が陸上・卓球・テニス・バスケ等で専門性を活かした指導をおこなうなど活動の内容が充実したものとなった。陸上部が全国大会に出場し、同好会であった柔道部が部に昇格し全員黒帯となった。(◎) (3)「堺上高杯」女子の部は18チーム120名、男子の部は23チーム150名の中学生が参加し交流を深めた。隣接小学校の必修クラブに卓球部員とバドミントン部員を派遣し、指導に当たらせ小学生とも交流をおこなった。(○) (4)行事満足度が10ポイント増の66.5%に、生徒会行事への参加が9ポイント増の43%になった。(○)</p>
4 校内運営体制の改善 と人材の育成	<p>(1)業務分担表を作成し、分掌業務の改善に努める。将来を見据えた将来構想委員会の活用を図る。 (2)事務室業務について、優先順位をつけた業務執行により業務効率の向上をめざす。同時に経費の効果的な執行に努める。 (3)新たな取組や改善方策の提言等の具現化をめざす。 (4)指導教諭を活用し、経験年数の少ない教員の育成を図る。</p>	<p>(1)平成26年度に引き続き業務分担表を作成する。業務の精選と簡素化、業務量の均等化、情報の共有化をめざす。将来構想委員会を活用しH28入試対応やアドミッションポリシーの構築を図る。 (2)事務室業務分担表を作成する。優先順位をつけた業務執行を心掛け処理時間を短縮し業務効率の向上をめざす。同時に校長マネジメント経費等も含めた予算の効果的な執行に努める。 (3)学校独自の提言書を作成し、個々に校長に提出、また、将来構想委員会においても、新たな取組提言や提案を行い、その具現化に取り組む。 (4)経験年数の少ない教員の育成を図るため、平成26年度に引き続きフレッシュミーティングを開催する。指導教諭を活用し、初任者を対象に分掌業務や担任業務等の研修を行い、育成を図る。また、年2回研究授業週間を設け研究協議を行うことにより授業力の向上を図る。人権研修や教育相談研修などの実施に際し、実態に即した内容となるよう創意工夫を行う。</p>	<p>(1)6月に分掌業務分担表を作成する。「各分掌等有機的に機能している」を70%以上に(H26は68%)、情報の共有化も含め5月までにアドミッションポリシーを確定する。 (2)4月に分担表を作成する。 (3)提言書提出数を10シート以上に。「学校運営に教職員の意見が反映されている」を60%以上に(H26は54%) (4)「校内研修が計画的に実施されている」を80%に(H26は72%)「教育実践に役立つ内容となっている」を70%に(H26は65%)</p>	<p>(1)業務分担表の作成により各分掌の課題改善が図られた。中でも、懸案であった情報係を分掌として位置づけ「情報管理部」として立ち上げることができた。(○) 「各分掌等有機的に機能している」が69%に(△) 年度当初に、将来構想委にアドミッションポリシーの構築を指示したことで組織としての目標意識が生まれ、中高連絡会の運営や広報活動改善などポジティブな発想が生まれ若手育成に繋がった。(○) (2)4月に事務室業務分担表を作成。課題の共有化に努め、校長マネジメント予算等の効果的な執行が図られた。(○) (3)提言書の提出は3名の方からのみであったが、具体的な提言もあり、HP等の改善の一助となった。(△) 「学校運営に意見が反映されている」が50%に(△) (4)フレッシュミーティングは年間5回実施。課題洗い出しと課題改善策などの協議をおこなうことにより、学校運営全体を見ることができるようになり、意欲の高まりが感じられるようになった。(○)「校内研修が計画的に実施されている」が74%に「教育実践に役立つ内容となっている」が61%に(△)</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">保護者や地域との連携の推進</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">5 広報活動の充実と</p>	<p><b>(1) 中学校等への広報の充実に努め、更なる連携を推進する。</b></p> <p><b>(2) PTA との連携を深め、PTA 活動の更なる充実を図る。</b></p> <p><b>(3) 隣接小学校との連携行事の更なる充実と地域や地元企業との連携を図る。</b></p> <p><b>(4) 保護者向けネットの登録者を増やし配信内容を充実させる。</b></p>	<p>(1) 在校生全出身中学校を訪問し広報に努めるとともに新入生の状況把握を行う。中高連絡会を実施し、生徒状況等について共有化を図る。</p> <p>(2) 大学見学会の実施形態を定着化し参加者増を図る。文化祭のPTAブースに創意工夫を加え更なる充実を図る。PTA 一日研修や教養講座の参加促進を図る。体育大会で飲料配布を行う。</p> <p>(3) 隣接小学校への授業見学やダンス部による交流を引き続いて行う。月1回の校外補導時に地域清掃を行い連携に努める。地元企業との連携方策について検討し具体化する。</p> <p>(4) 合格者説明会時に登録をしていただき、登録者を増やすとともに発信内容の充実を図る。</p>	<p>(1) 全中学校訪問を目標とする・中高連絡会参加10校以上をめざす。(H26は4校)</p> <p>(2) 大学見学会は20%増を(H26は2回計57名)、研修・講座は定員オーバーを目標とする。体育大会では生徒全員へ冷たい飲料を配布する。</p> <p>(3) 隣接小学校との相互授業見学と研究協議の実施。ダンス部の指導を3回以上実施。</p> <p>(4) 登録率60%以上、年間配信数50件を目標とする。</p>	<p>(1) 53校の中学校に広報のため訪問し、情報交換をおこなった。説明会は4回実施。新しい入試制度についても丁寧に説明し、進路希望調査でも多くの志望を得た。中高連絡協議会には21校22名の先生が参加され授業や部活動見学、協議を通して情報交換ができた。(○)</p> <p>(2) 大学見学会は、合計76名で33%増となりPTA行事として定着した。教養講座も定員を上回った。(○)</p> <p>(3) 恒例となったダンス部の出前指導に加え隣接小学校の必修クラブに卓球部員とバドミントン部員を派遣し指導に当たらせ小学生とも交流をおこなった。若手教員を中心に隣接小学校の授業と給食の見学を実施した。(○)</p> <p>(4) 保護者向けメールは1月時点で加入者が504名加入率60%で目標に達した。1月時点で配信数は30回である。学校行事や生徒の様子を発信することで更なる連携が図られ、保護者からも好評をいただいている。(○)</p>
--	---	--	---	--